

2 食品製造業の構造変化

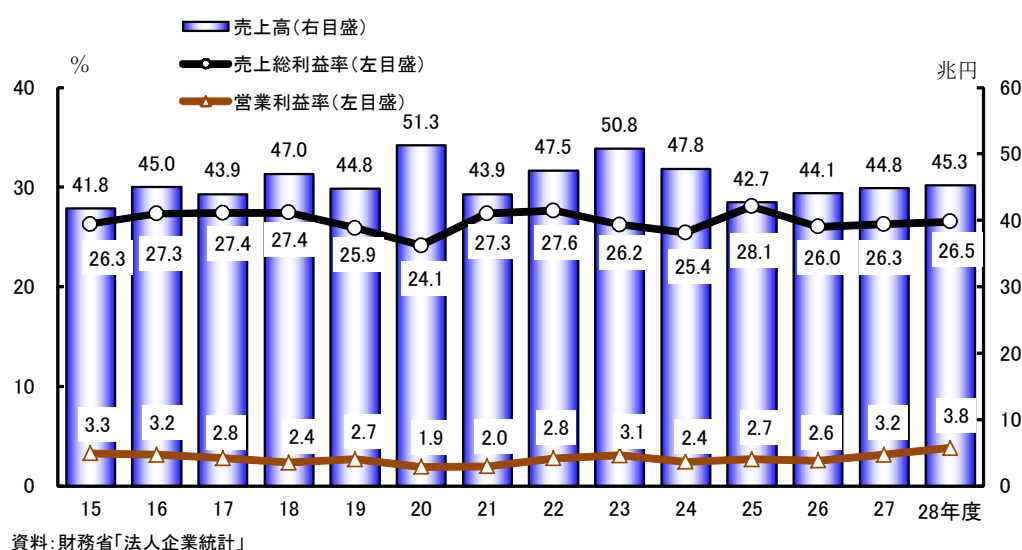
(1) 食品製造業の経営動向

平成28年度食品製造業における売上高はわずかに増加し、売上総利益率、営業利益率は改善

平成 28 年度の食品製造業の売上高は、財務省「法人企業統計」によれば、45 兆 3 千億円で対前年度比 1.0 %とわずかに増加し、平成 25 年度以降増加傾向で推移している。

売上総利益率は 26.5 %で対前年度比 0.2 ポイント改善した。一方、売上高営業利益率は 3.8 %と対前年度比 0.7 ポイント改善した。

図1-25 食品製造業の売上高、売上原価、営業利益率の推移



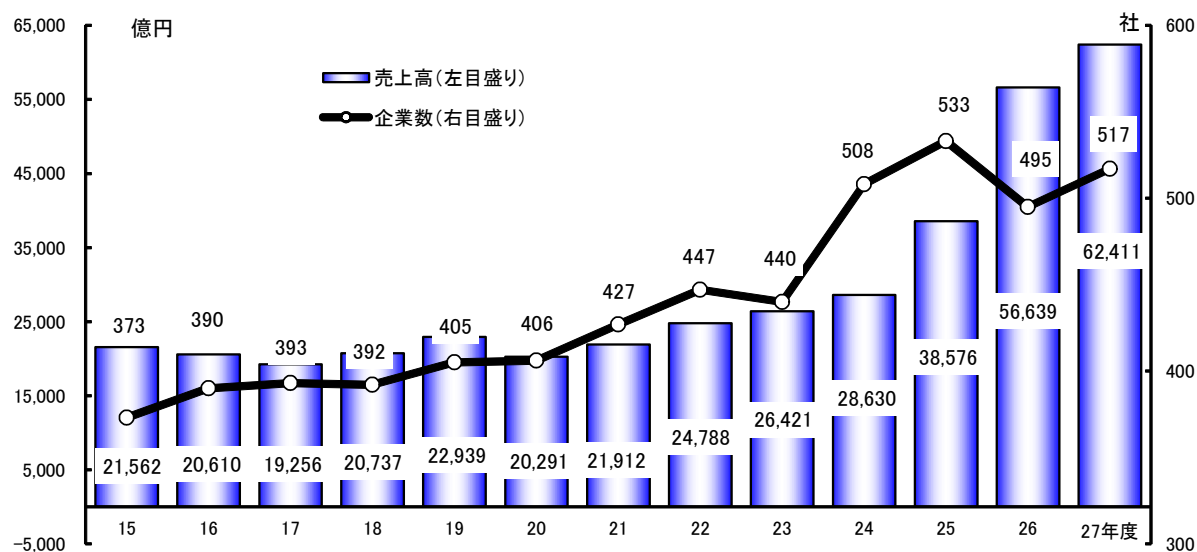
平成27年度海外現地法人における食品製造業の企業数及び売上高は対前年度比で増加

平成 27 年度の海外現地法人における食品製造業の企業数（回収数）は、経済産業省「海外事業活動基本調査」によれば、517 社で対前年度比でやや増加している。合計売上高は 6 兆 2 千億円で対前年度比 10.2 %とかなりの程度増加している。

食品製造業の合計売上高は、平成 20 年度は世界経済不況により減少したものの、平成 21 年度以降は順調に拡大している。食品製造業は、国内市場が人口減少・少子高齢化などを背景に縮小傾向にあることから、成長戦略を海外進出にもとめる動きが加速している。

国別の現地法人企業数は中国が 179 社で最も多く、次いで米国が 81 社、タイが 57 社、ベトナムが 26 社、インドネシアが 25 社、イギリスが 19 社、マレーシアが 17 社、シンガポールが 15 社、オーストラリアが 14 社、台湾が 12 社、韓国が 11 社等となっている。

図1-26 海外現地法人における食品製造業の企業数と売上高の推移



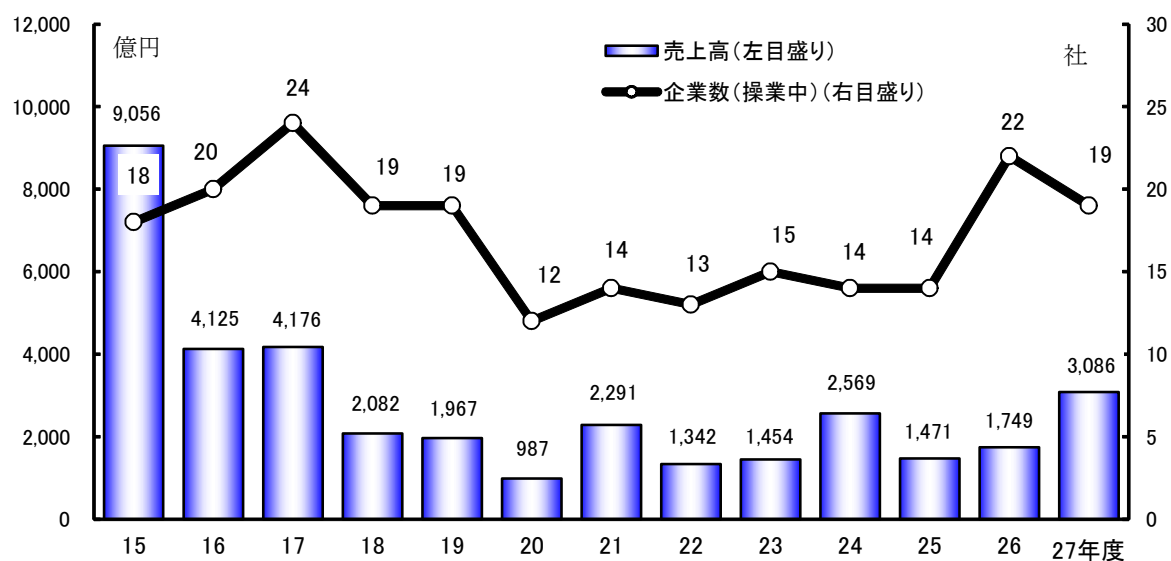
資料：経済産業省「海外事業活動基本調査」より作成

平成27年度食品製造業における外資系企業の売上高は対前年度比で大幅な増加

食品製造業における外資系企業の売上高は、経済産業省「外資系企業動向調査」によれば、平成16年度以降、低迷している。平成27年度は3,086億円で対前年度比で大幅な増加となった。

母国籍別企業数（回収数）は平成18年度以降、減少から横ばいで推移していたのが、平成26年度は22社にまで増加したものの、平成27年度は19社と再び減少に転じた。母国籍別外資系企業数はアメリカ系が9社、アジア系が7社、ヨーロッパ系が3社となっている。

図1-27 外資系企業（食品製造）における売上高と企業数の推移



資料：経済産業省「外資系企業動向調査」より作成

（２）食品製造業の生産動向

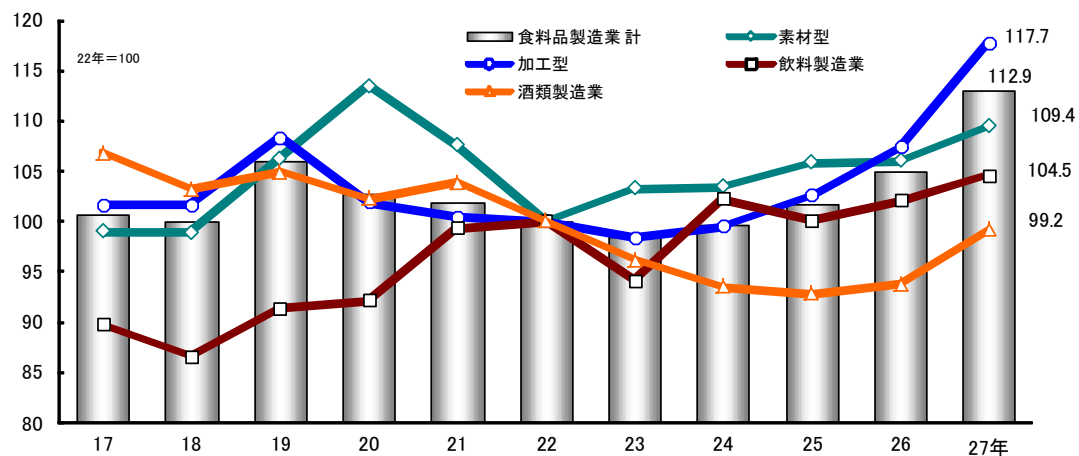
平成27年の製造品出荷額等は、32兆5千億円で対前年比7.6%とかなりの程度増加

平成27年の食料品製造業における製造品出荷額等（酒類・飲料含む）は、経済産業省「平成28年経済センサス活動調査結果（製造業）」によれば、32兆5千億円で対前年比7.6%とかなりの程度増加した。原材料使用額等が対前年比6.1%とかなりの程度増加したものの、製造品出荷額等がそれを上回っている。

業種別にみると、特に増加が著しいのは、畜産食料品製造業、水産食料品製造業、茶・コーヒー製造業、酒類製造業、パン・菓子製造業、その他の食料品製造業、調味料製造業となっている。これらの業種では原材料使用額等が増加しており、原材料コストの上昇が製品価格に転嫁されている状況がうかがえる。

4区分業種類型別にみると、素材型は4兆7千億円で対前年比3.2%、加工型は21兆4千億円で同9.7%、飲料は2兆9千億円で同2.4%、酒類は3兆5千億円で同5.8%とすべての業種類型で増加となった。

図1-28 食品製造業の製造品出荷額等の推移



資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス活動調査」より作成

表1-8 食品製造業の製造品出荷額等

単位:10億円、%															
区分・年次		金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	対前年増減率					
		24年		25年		26年		27年		22年	23年	24年	25年	26年	27年
業 種															
食料品製造業		28,622	100.0	29,201	100.0	30,162	100.0	32,454	100.0	▲ 1.8	▲ 1.6	1.2	2.0	3.3	7.6
素材型		4,433	15.5	4,535	15.5	4,541	15.1	4,688	14.4	▲ 7.0	3.2	0.2	2.3	0.1	3.2
調味料製造業		1,766	6.2	1,776	6.1	1,788	5.9	1,860	5.7	▲ 1.4	▲ 2.6	▲ 0.7	0.6	0.7	4.0
糖類製造業		492	1.7	526	1.8	530	1.8	534	1.6	▲ 14.5	8.5	▲ 4.3	6.9	0.8	0.8
製穀・製粉製造業		1,291	4.5	1,328	4.5	1,266	4.2	1,304	4.0	▲ 8.9	5.8	▲ 0.5	2.9	▲ 4.7	3.0
動植物油脂製造業		885	3.1	905	3.1	957	3.2	989	3.0	▲ 11.2	9.9	6.0	2.3	5.8	3.4
加工型		18,041	63.0	18,604	63.7	19,470	64.6	21,355	65.8	▲ 0.4	▲ 1.7	1.1	3.1	4.7	9.7
畜産食料品製造業		5,117	17.9	5,488	18.8	5,774	19.1	6,678	20.6	0.3	▲ 1.9	▲ 0.6	7.2	5.2	15.7
水産食料品製造業		3,005	10.5	3,023	10.4	3,098	10.3	3,502	10.8	▲ 3.1	1.1	▲ 4.8	0.6	2.5	13.0
野菜・果実缶等製造業		784	2.7	744	2.5	761	2.5	789	2.4	▲ 1.7	4.2	▲ 2.8	▲ 5.2	2.2	3.8
パン・菓子製造業		4,569	16.0	4,634	15.9	4,869	16.1	5,142	15.8	0.6	▲ 3.0	2.7	1.4	5.1	5.6
その他の食料品製造業		4,565	16.0	4,714	16.1	4,969	16.5	5,244	16.2	▲ 0.1	▲ 2.9	6.7	3.3	5.4	5.5
飲料		2,859	10.0	2,800	9.6	2,855	9.5	2,923	9.0	0.7	▲ 5.9	8.7	▲ 2.0	1.9	2.4
清涼飲料製造業		2,280	8.0	2,262	7.7	2,312	7.7	2,326	7.2	2.3	▲ 8.3	9.8	▲ 0.8	2.2	0.6
茶・コーヒー製造業		579	2.0	538	1.8	543	1.8	597	1.8	▲ 5.4	4.2	4.4	▲ 7.0	0.9	10.0
酒類		3,289	11.5	3,262	11.2	3,296	10.9	3,487	10.7	▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 2.7	▲ 0.8	1.0	5.8
酒類製造業		3,289	11.5	3,262	11.2	3,296	10.9	3,487	10.7	▲ 3.7	▲ 3.9	▲ 2.7	▲ 0.8	1.0	5.8

資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス活動調査」より作成

表1-9 平成27年の食品製造業の生産概要

業 種	区分	事業所数	従業者数	原材料 使用額等	製造品 出荷額等	付加価値 額
		カ所	人	億円	億円	億円
食料品製造業		28,887	1,098,676	185,905	324,539	109,533
素材型		2,644	79,945	30,572	46,879	14,069
調味料製造業		1,557	49,366	9,860	18,602	7,607
糖類製造業		139	6,148	3,542	5,343	1,507
製穀・製粉製造業		742	14,470	10,041	13,041	2,547
動植物油脂製造業		206	9,961	7,128	9,892	2,408
加工型		22,591	935,277	130,117	213,555	73,374
畜産食料品製造業		2,661	157,302	47,321	66,777	16,983
水産食料品製造業		5,920	146,567	23,600	35,021	10,179
野菜・果実缶等製造業		1,801	46,004	4,902	7,895	2,595
パン・菓子製造業		5,355	247,269	23,891	51,421	24,261
その他の食料品製造業		6,854	338,135	30,404	52,441	19,356
飲料		2,110	48,891	16,739	29,233	10,826
清涼飲料製造業		635	29,283	12,541	23,260	9,315
茶・コーヒー製造業		1,475	19,608	4,198	5,973	1,510
酒類		1,542	34,563	8,478	34,872	11,265
酒類製造業		1,542	34,563	8,478	34,872	11,265
前年増減率		%	%	%	%	%
食料品製造業		5.0	0.0	6.1	7.6	9.7
素材型		6.2	▲ 2.1	0.8	3.2	7.7
調味料製造業		3.9	▲ 0.7	4.2	4.0	2.3
糖類製造業		7.8	▲ 9.7	▲ 0.2	0.8	3.8
製穀・製粉製造業		11.4	▲ 2.6	▲ 2.5	3.0	27.3
動植物油脂製造業		5.1	▲ 3.2	1.6	3.4	10.6
加工型		3.5	▲ 0.1	9.3	9.7	9.2
畜産食料品製造業		6.7	5.8	14.2	15.7	19.1
水産食料品製造業		3.0	0.1	13.0	13.0	11.8
野菜・果実缶等製造業		8.0	▲ 1.8	3.4	3.8	1.7
パン・菓子製造業		2.1	▲ 4.1	6.2	5.6	3.9
その他の食料品製造業		2.7	0.6	3.0	5.5	8.1
飲料		23.9	6.1	▲ 5.0	2.4	13.1
清涼飲料製造業		13.0	2.8	▲ 8.2	0.6	12.6
茶・コーヒー製造業		29.3	11.4	6.1	10.0	16.8
酒類		3.9	▲ 0.7	3.4	5.8	11.6
酒類製造業		3.9	▲ 0.7	3.4	5.8	11.6

資料:経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」より作成

（３）食品製造業の労働生産性

平成27年の食品製造業の労働生産性は、対前年比9.6%とかなりの程度上昇

平成27年の食料品製造業における従業者1人当たりの付加価値額は、997万円で対前年比9.6%とかなりの程度増加した。平成23年の8.4%を上回る伸びを示している。これは平成27年の原材料使用額等が対前年比6.1%とかなりの程度増加したものの、製造品出荷額等がそれを上回る7.6%と増加し、原材料コストの上昇が製品価格に転嫁されたことが一因とみられる。

4区分業種類型別にみると、従業者1人当たりの付加価値額は、素材型が1,760万円で対前年比10.0%とかなりの程度増加し、前年に比べて改善している。素材型は売上高に占める付加価値額の割合が低いものの、労働生産性が加工型に比べて高いことが特徴といえる。

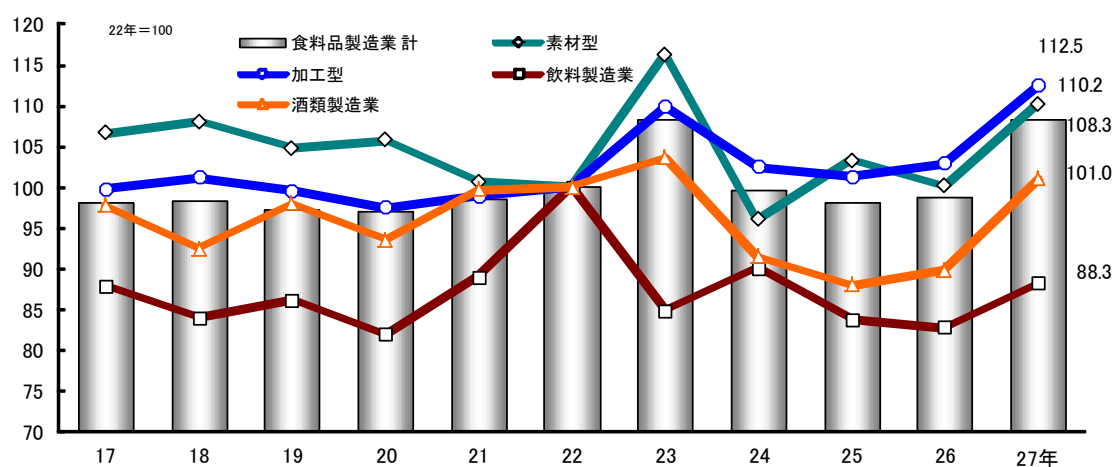
加工型も785万円で同9.3%とかなりの程度増加した。加工型は売上高に占める付加価値額の割合が高いものの、労働集約型の産業であり、労働生産性が低い。

飲料も2,214万円で同6.6%と前年に比べて改善した。

酒類も3,259万円で同12.5%と前年に比べかなり大きく増加した。

近年、食品製造業の労働生産性は総じて低迷しているといえる。この要因として、原材料調達コストや物流コストの増加があげられる。特に輸入食料品や国産農林水産物の不作・不漁など供給不安定な状況が続いている。一方、食品小売業や外食産業等の需要においては価格競争の激化から、販売単価や売上数量の低迷が課題となっている。

図1-29 食品製造業の従業者1人当たり付加価値額指数の推移



資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス-活動調査」より作成

注1：1人当たり付加価値額 = 付加価値額 ÷ 従業員数

注2：付加価値額（経済産業省「工業統計」参照）

（従業者30人以上）付加価値額 = 製造品出荷額等 + （製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額） + （半製品及び仕掛品年末価額 - 半製品及び仕掛品年初価額） - （消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額） - 原材料使用額等 - 減価償却額

（従業者29人以下）粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - （消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額） - 原材料使用額等

表1-10 食品製造業の従業者1人当たり付加価値額

単位:万円、%

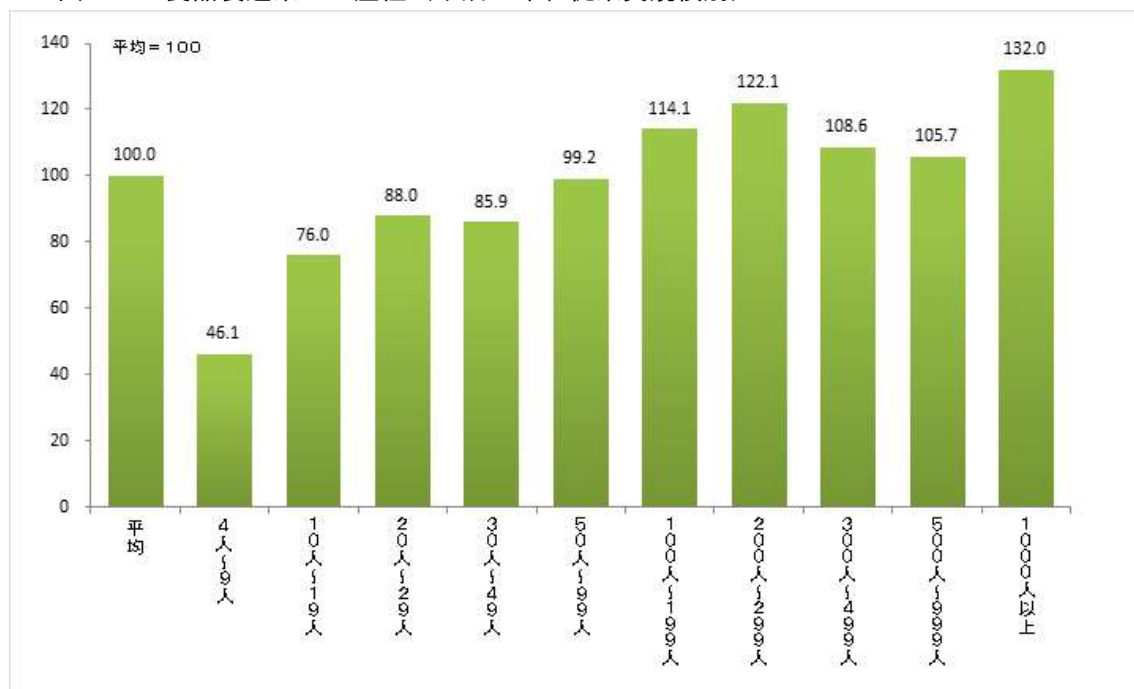
業種	金額						対前年増減率					
	22年	23年	24年	25年	26年	27年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
食料品製造業	921	998	918	904	909	997	1.4	8.4	▲ 8.1	▲ 1.5	0.6	9.6
素材型	1,597	1,857	1,533	1,650	1,599	1,760	▲ 0.6	16.2	▲ 17.4	7.6	▲ 3.1	10.0
調味料製造業	1,467	1,700	1,451	1,521	1,495	1,541	1.5	15.9	▲ 14.7	4.8	▲ 1.7	3.1
糖類製造業	2,410	2,688	2,030	2,346	2,132	2,451	▲ 15.2	11.6	▲ 24.5	15.6	▲ 9.1	15.0
穀類・製粉製造業	1,580	2,116	1,240	1,485	1,347	1,760	▲ 1.5	33.9	▲ 41.4	19.8	▲ 9.3	30.7
動植物油脂製造業	1,885	1,722	2,116	2,083	2,117	2,418	6.4	▲ 8.6	22.8	▲ 1.5	1.6	14.2
加工型	697	766	715	706	718	785	1.1	9.9	▲ 6.7	▲ 1.2	1.6	9.3
畜産食料品製造業	931	1,060	958	943	959	1,080	2.8	13.9	▲ 9.6	▲ 1.6	1.7	12.5
水産食料品製造業	601	673	603	602	622	694	▲ 0.2	12.0	▲ 10.4	▲ 0.2	3.4	11.6
野菜・果実等製造業	566	622	557	560	544	564	▲ 0.2	9.9	▲ 10.4	0.6	▲ 2.9	3.6
パン・菓子製造業	845	928	872	872	905	981	1.0	9.7	▲ 6.0	0.0	3.8	8.4
その他の食料品製造業	535	570	556	538	533	572	0.5	6.4	▲ 2.3	▲ 3.3	▲ 1.0	7.5
飲料	2,509	2,129	2,259	2,101	2,077	2,214	12.5	▲ 15.1	6.1	▲ 7.0	▲ 1.1	6.6
清涼飲料製造業	3,539	3,022	3,221	2,966	2,906	3,181	14.8	▲ 14.6	6.6	▲ 7.9	▲ 2.0	9.5
茶・コーヒー製造業	850	812	787	739	735	770	▲ 0.9	▲ 4.5	▲ 3.2	▲ 6.1	▲ 0.5	4.9
酒類	3,225	3,342	2,951	2,837	2,898	3,259	0.3	3.6	▲ 11.7	▲ 3.9	2.2	12.5
酒類製造業	3,225	3,342	2,951	2,837	2,898	3,259	0.3	3.6	▲ 11.7	▲ 3.9	2.2	12.5

資料:経済産業省「工業統計」、「経済センサス-活動調査」より作成

食品製造業の労働生産性は、総じて、従業員規模が大きいほど高い

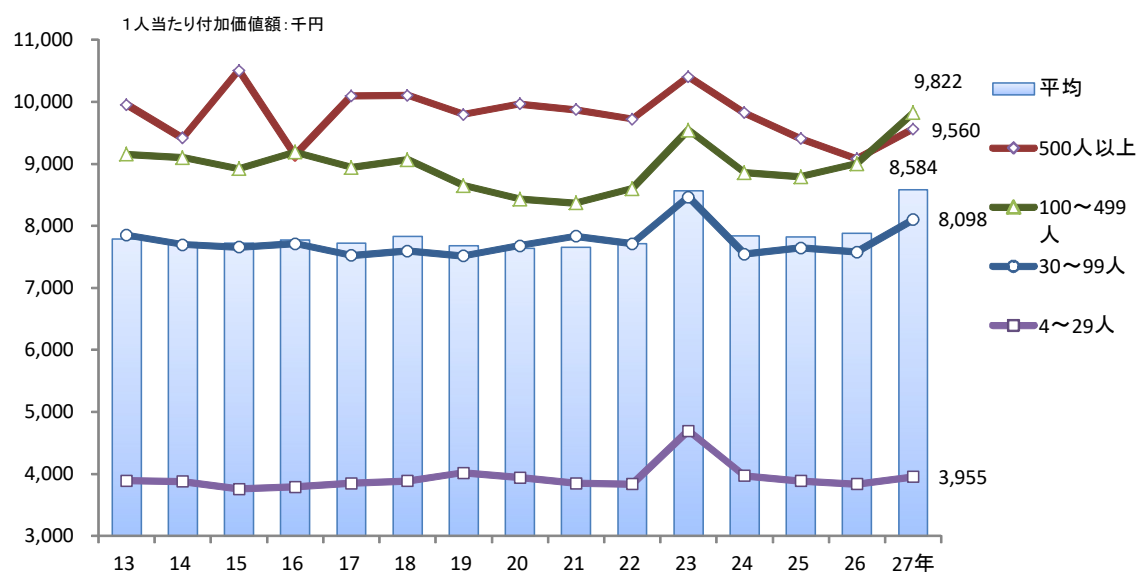
平成27年の食品製造業の労働生産性は、経済産業省「平成28年経済センサス活動調査結果(製造業)」によれば、従業員数が「200人～299人」までは、規模が大きくなるにつれて高くなっているが、「300人～499人」では伸び率が停滞し、「1,000人以上」で再び、上昇している。このような労働生産性の従業員規模による差異は、毎年、同様な傾向となっている。

図1-30 食品製造業の生産性(平成27年、従業員規模別)



資料:経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査」より作成

図1-31 食品製造業の生産性の推移



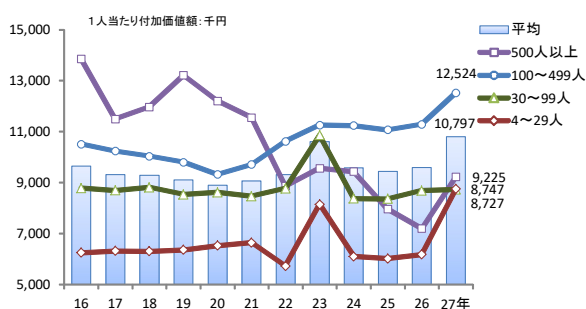
資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス・活動調査」より作成

食品製造業の業種別にみた労働生産性は、総じて、酒類、清涼飲料、糖類、動物油脂など設備投資型の製造業ほど高い

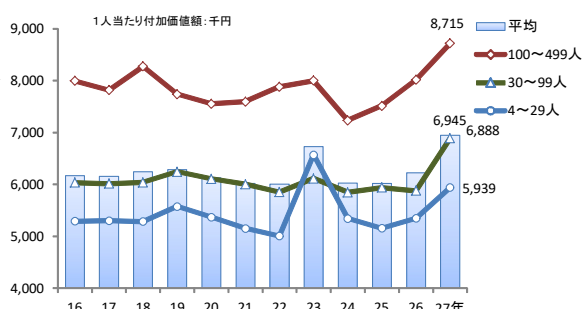
食品製造業の労働生産性は、業種別により差異がみられる。酒類製造業、清涼飲料製造業、糖類製造業、動植物油脂製造業、製穀・製粉製造業、調味料製造業、畜産食料品製造業等の順で高くなっている。設備投資型で工場の規模が比較的大きい製造業主体となっている業種が高い傾向にある。

図1-32 食品製造業の生産性の推移（業種別）

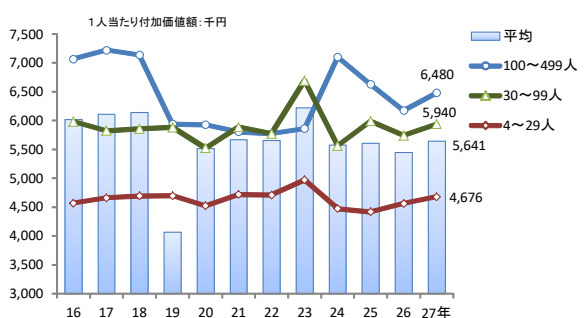
畜産食料品製造業



水産食料品製造業



野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業



調味料製造業

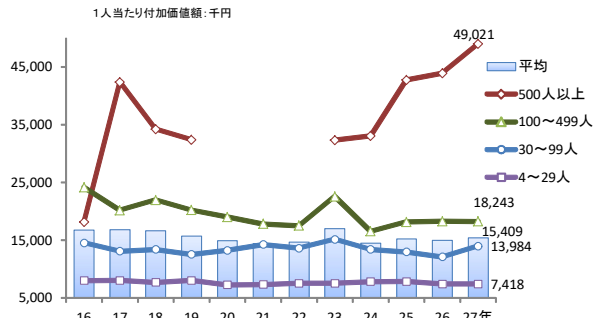
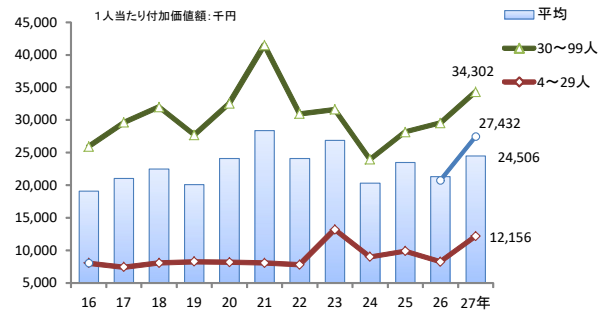
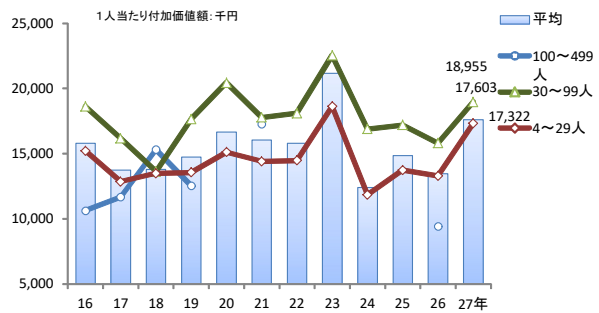


図1-33 つづき 食品製造業の生産性の推移（業種別）

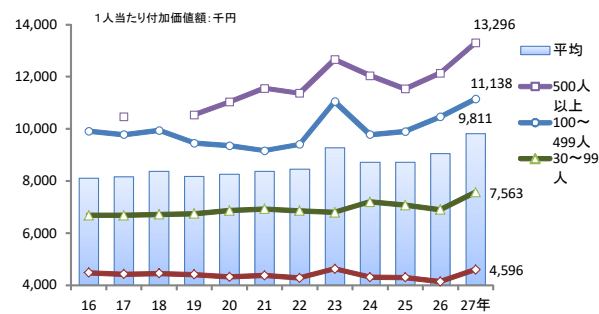
糖類製造業



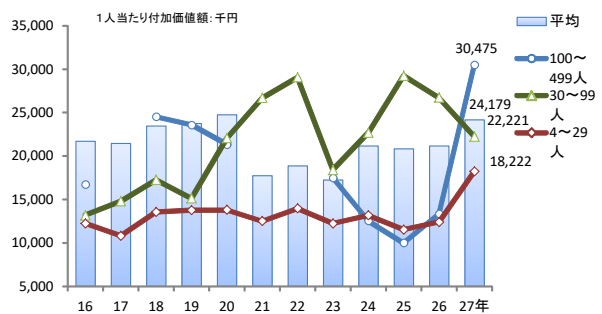
製穀・製粉製造業



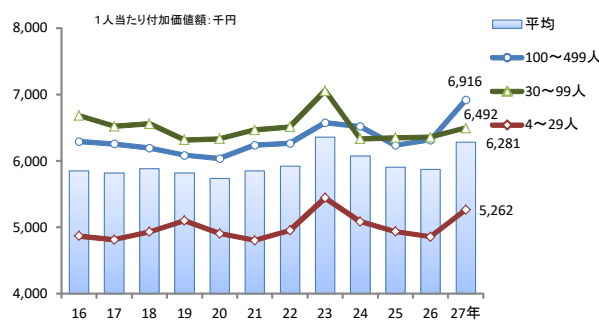
パン・菓子製造業



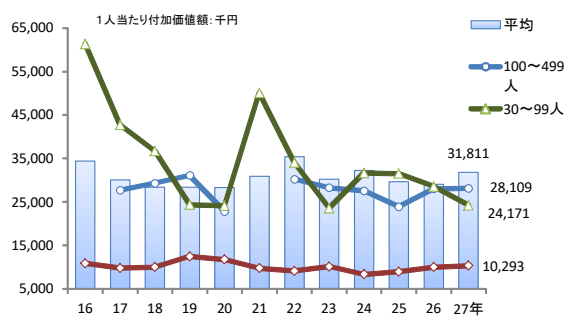
動植物油脂製造業



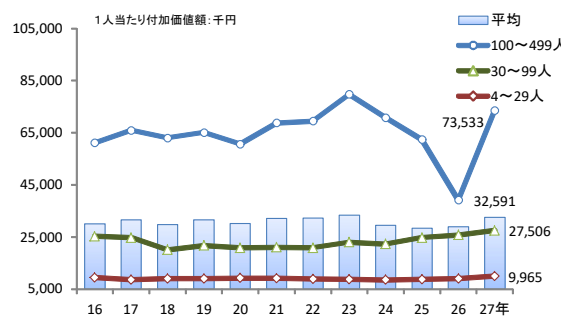
その他の食料品製造業



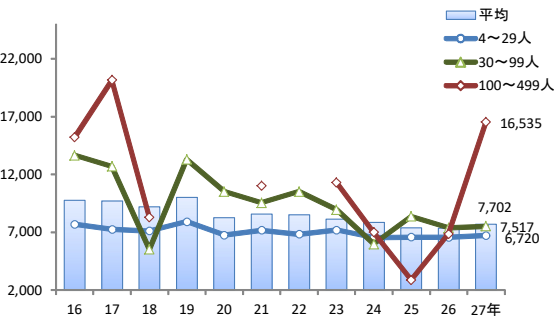
清涼飲料製造業



酒類製造業



茶・コーヒー製造業



資料：経済産業省「工業統計」、「経済センサス・活動調査」より作成

